

# 連珠っておもしろい

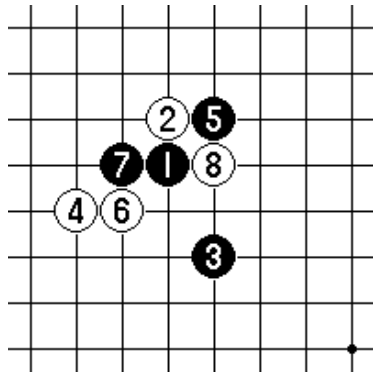
## 九段 河村典彦

### ● 第111回 ●

#### ■ 追詰に行くか否か？

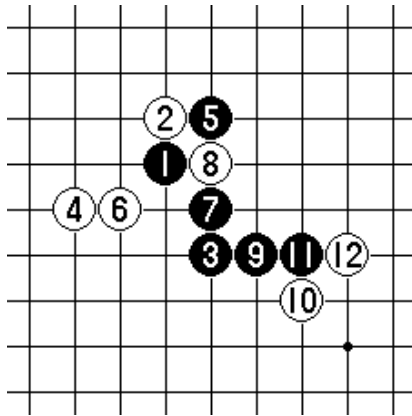
今回は、9月に行われた京都阪神對抗戦の棋譜を参考に、追詰に行くかどうかについて考えてみたい。

題材となったのは、長谷川一阪本戦である。譜のように山月山嵐で黒5と打ち、白6と防いだ局面である。



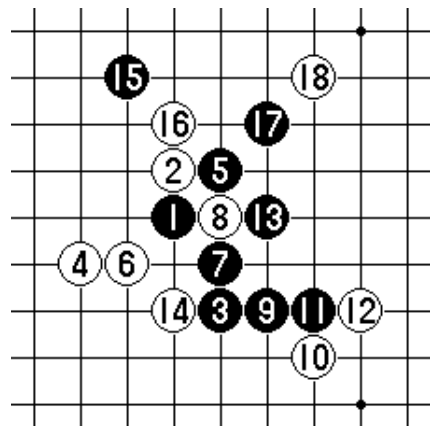
隣で見えていたのだが、「あれ？ここから追詰じやないの？」と瞬間的に感じた。似たような筋を以前にやつ

たことがあったからだが、ちよつと読んだだけではよくわからない。白番の長谷川九段に追詰がなかったか局後に聞いたが、「追詰め？そんな筋あった？」という答えだったので全くの無警戒だったようだ。実戦は黒7、白8と打って通常の形に戻っている。

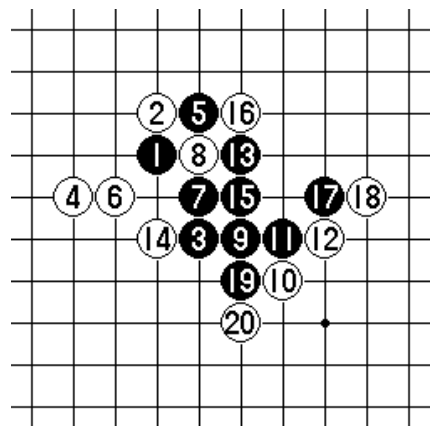


追詰に行くとしたら、黒7、9と引いていくしかない。白12までは一本道だがここからどう打つのか？というのが今回の課題でもある。ここまで打ってけん制手を打つという可能性もあ

るが、適当なけん制手はなさそうである。

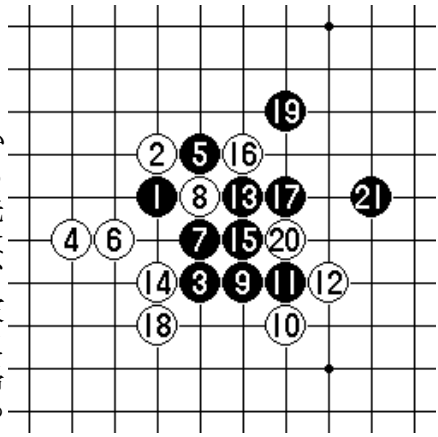


追詰めるとしたら、黒13のミセ手から始めるのが手筋である。これを四・三と引いてしまうとノリ手になる。白も14と焦点を止めるのが最強防で、さて、ここからである。上辺に向かうには黒15とトビ三を打つてから黒17と含むのがまた手筋なのだが、これは冷静に白18と止められると二の矢がない。追詰するにいは追い手を打たないといけないのがつらい。



ということ、黒は15と引くしかない。白16を反対は黒簡単なので、白は16から止めるしかない。ここで勝ったとばかりに黒17、19と打つと、白18、20でできないノリ手にかかる。対局中もここまでは読めており、「このノリ手がきついな」と思っていた。実際対局者だったらどうするか？自分だつたらどうするか？多分追詰めに行くんだろうなと思う。そして結局防ぎに行つて負ける、というのが一番ありがちな

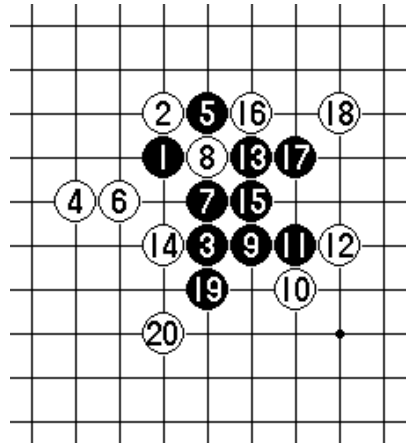
パターンであろうか。



ここから先は、家に帰ってから調べたものである。調べてみると、何と追詰があった。その手順はかなり難しい。

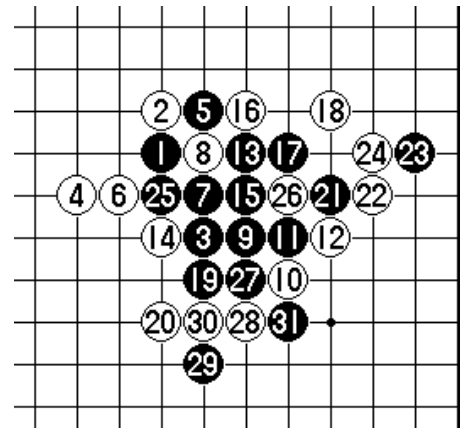
まずは黒17と引く。これを白18と反対に止めると、黒は19と打って勝ちになる。白20に黒21が両ミセだから白18は引いた方に止めることになる。

次の手がまた重要で、黒19とフクミ手を打つのが素晴らしい一手である。こういう時のフクミ手は常道であるが、これは先のノリ



手を打たれた時の対策にもなっている。それを両方防ぐには白20だが、こういう手も実戦では抜けやすい。さて、ここから追詰があるかどうかで結論が変わってくる。ここからの数手はなかなか人間では発見しにくいので、事前に研究していくのが大事である。

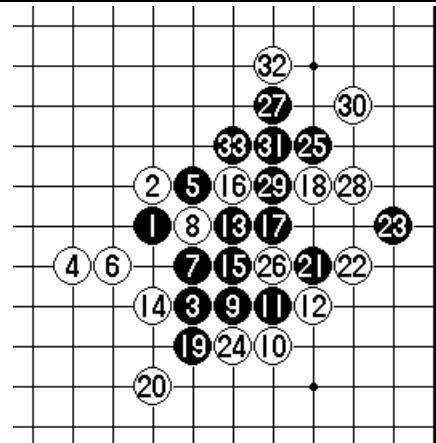
結論を言うと、ここから黒21に打ち、白22のノリ手に対し黒23！と止めておくのが絶妙珠となる。こういう手は盲点になりやすいので、逆にこういう手が打てるとう気持ちがいい。



対して白は24と焦点を止めるのが強そうだが、それには黒25が利いて黒27と四三を打っておけばノリ手を先手で止められるので、黒勝ちとなる。

なので白は24で27と尻から止める必要がある。こういう止めも実戦では気づきにくい。

ここからの黒勝ちがまた難しいが、ここまで来たらあとは集中力で勝ちきれるだろう。大事なものは、黒7の時点でこういう展開まで想定できるかである。



黒25からは今度は上辺に向かうのが良い。黒25と打って二通りの勝ちを狙う四追いを防ぐには白26と止めるしかないが、黒27と打って以下四追いとなる。

黒7から数えると、21後四追いという詰連珠となるが、実戦で勝てる人は数少ないであろう。でもこういう局を詰ましに行くことは、たとえ失敗しても得るものが大きいと思うので、ぜひ実戦ではチャレンジしてほしい。それが棋力向上にもつながると考えている。